

## 2010 年度 スウェーデン赤十字大学交換留学生だより

今年もまた、スウェーデン赤十字大学から、二人の交換留学生在本学にやってきました。ザーラ・ウシーさんとカレン・エリクソンさんです。二人は11月5日から11月27日までの3週間、本学の4年生と一緒に総合実習を行いました。

今年、川越同仁会病院という精神科病院で4日間実習し、患者さんやスタッフと温かな交流をもちました。スウェーデンでは30年ほど前に国が精神科病院を廃止したため、二人にとっては初めての体験でした。

その後、精神障害者の患者クラブである「ストライドクラブ」と作業所「あとリエふぁんとむ」で2日間、地域生活を送る利用者さんと過ごしました。患者クラブはストックホルムにもあるそうです。

その後、日本赤十字広島看護大学を訪れ、原爆ドームの見学や当時看護学生だった被爆者の体験を聞く機会を持ちました。東京医科歯科大学ではリエゾン専門看護師の講義を聞いたり、日本赤十字社や日赤医療センターの見学など、盛りだくさんのスケジュールの合間を縫って、二人はお寿司屋さんに通ったり、浅草見物をするなど、日本の文化を満喫していたようです。

### 【川越同仁会病院にて】



病院の庭にある柿の木から、病院の職員さんが二人のための柿を採ってくれました。

初めて食べる日本の柿に、大満足だったようです。

OT プログラムで、病棟にある和室で患者さんと野点をしました。お茶の味はいかがだったでしょうか？



カラオケで「イマジン」を熱唱するザーラ。



お点前に挑戦するカリン。



患者さんから折り紙を教わりました。  
細かい作業に四苦八苦のようでしたが、何とか完成しました。



病院内の同仁学舎にて、実習まとめのカンファレンスを行いました。  
元院長の鈴木純一先生や中村看護部長はじめ病院の看護スタッフ、  
スウェーデン赤十字大学のマリー先生とステファニー先生も参加して下さり、  
活発なディスカッションを行いました。  
ステファニー先生はフランス語圏のスイス出身で、同じヨーロッパでも  
多様な文化や国民性があるということがよくわかりました。

## 【ストライドクラブにて】



ストライドクラブでは、  
カリンは書道にも挑戦しました。



ザーラは、メンバーと一緒に昼食作りに参加。  
この日のメニューは、キノコの炊き込みご飯と  
ナスの中華風炒め、お吸い物でした。

## 【日本赤十字看護大学にて】



大学では、他の精神科病院で実習をした4年生とともに実習報告を行いました。  
二人は、精神科病院、地域施設ともに、スタッフのケアの質の高さが印象的だったそうです。



写真中央列の左から、武井教授、ステファニー先生、マリー先生、カリン、ザーラ、  
前列と後列は精神保健看護学領域で総合実習を行った本学の4年生と教員です。

ザーラとカリンが着目した日本のスタッフのケアの質の高さとは、何だったのでしょうか？

それは、スタッフが、患者/メンバーを尊重していて、温かく対応していること、患者/メンバーとよく話し合っていて双方向のコミュニケーションが成り立っていること、患者/メンバーの背景などをよく知って理解していること、ということでした。スウェーデンでは総合病院にある精神科病棟が精神医療の中心ですが、入院期間が4日から1週間くらいなので、かわりも雑なのだ二人は行っていました。二人とも看護の大事な点をとてよくとらえていることに感心し、同時に、ケアの質を図る基準が各国共通であることも改めて実感しました。

広島での体験では、原爆というものもたらす被害の大きさ（長期的な被害も含めて）を目の当たりにして、二人とも衝撃を受けたようです。永世中立国スウェーデンでは、この200年間というもの戦争がなく、ヨーロッパでの戦争被害を間接的にしか知らなかったそうです。日本で見聞きしたものを、帰国してから学生達に是非、伝えたいと言っていました。

病院でも地域施設でも、患者さんやメンバーの方たちが、二人をととても暖かく迎えてくれ、交流を楽しんでいました。次は、留学生はいつ来るの？という質問が飛び交っているそうです。今度はいつになるのでしょうか？



約1ヶ月の日本滞在で多くの経験、交流をし、大変充実した留学となったようです。また日本に戻ってきたいと笑顔で日本を後にしました。

